

ワールドカフェ 3 (競合認識②)

「現状の競合施設の特徴」 「競合施設の強みの源泉やそれを生み出すプロセス」

将来予測



Share

GROUP : A

医療法人が強く、連携を模索する。競合と戦っていくには、「**リハビリに特化する**」など、テーマを決めて進めていく必要がある。

財政の縮小が進み、**地域完結**が増える。事業者の**確固な運営体制には報酬**があり、**小規模事業所の淘汰**が進んでしまう可能性がある。

M&Aが進み、**小規模事業者は淘汰**される。急性期から在宅までの流れを考えた時に、競争ではなく、**他法人との仲間関係**が重要になる。

ヨコのつながりが重要。法人が**生活の継続に必要な機能**を有していることが必要であり、他法人のよい点を模倣することが重要と思う。

GROUP : B

地域の事業所に見学を行うことで、様々な学びが得られる。**医療機関のリハ職との連携**を図るなどの取り組みが必要になる。

利用者の情報収集や、**正しいニーズを把握**を進めていかなければ、本当の意味で「リハビリ特化」とはいえなくなる。

医療機能の強化が行われる。居宅と在宅の情報収集を通じて、ケアマネが**幅広くニーズを捉えられる**ようになってくるのではないかな。

現在は、市内の施設長が集まり、話し合いを行うことで情報収集を行っている。今後は、**新たなリハビリ機能**を取り入れる必要がある。

GROUP : C

リハビリニーズが高まる中で「**元氣になれる**」取り組みを推進し、他の事業所との差別化を進めていく必要、**認知症対応の必要**がある。

高齢者の世代が変化するため、**幅広いニーズ**に対応できる体制と**介護の質向上**が必要になり、**認知症対応、重度者対応**も必須となる。

人材不足の中、**医療依存度、重度者対応**が求められ、**競合との特色の違い**が必要。一方で**競合との連携**もある意味では必要と思われる。

医療と介護がどうつながり、どう役割分担をしていくかが重要である。行政も、こうした点を住民に発信していくことが必要だと思う。